



# Information\_3



## 避妊・去勢手術のおはなし

飼っている動物さんに避妊・去勢手術を受けさせるかどうか、誰しも一度は悩まれたことがあるのではないのでしょうか？  
参考までに手術について、簡単にご説明します。

### 避妊手術

メスの子宮と卵巣を摘出します。お腹を切る開腹手術です。

抜糸：術後 10 日前後

◎生後 6 ヶ月頃から受けられます



### 去勢手術

オスの睾丸にある精巣を摘出します。睾丸は体の外側にあるので通常お腹は切りません。ただし停留睾丸※の場合、メス同様に開腹手術となります。

抜糸：猫の場合は必要ありません(糸は自然に吸収されます)

犬は術後 10 日前後

◎生後 6 ヶ月頃から受けられます

### ※停留睾丸について

胎児の睾丸はお腹の中にあり、生後半年頃までには陰囊(ふくろ)まで降りてきます。これが降りてこないで途中で止まった状態を停留睾丸といいます。非常に腫瘍化しやすく遺伝するので、早期の摘出が望まれます。

## 「メリット」と「デメリット」

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>生殖器の病気の回避とリスクの低下</li> <li>望まれない妊娠の回避</li> <li>発情期ストレスからの開放</li> <li>メスを巡るケンカの回避(→エイズなどの感染機会低下) など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身麻酔のリスク</li> <li>術後の痛みによるストレス</li> <li>肥満になりやすくなる</li> <li>ホルモンバランスの崩れにより、毛並みが変わる事がある など</li> </ul>

生殖器の病気で、犬に多くみられる「子宮蓄膿症」は命に関わる病気です。手術には危険も伴い、入院も長期になってしまいます。

デメリットに挙げた、術後の痛みは鎮痛剤などを用いて対応できます。肥満に関しても運動と食事回避することはできます。

交配を考える場合、出産のリスクを知っておく必要があります。そして、生まれた命には絶対に責任を持たなくてはなりません。

環境省の統計によると、平成 23 年度には 17 万頭以上の犬猫が殺処分されています。悲しい現実です。



スタッフより



避妊・去勢手術による性格や行動の変化は個体差があるようで、一概には言えないようです。

手術するしないに関わらず、気になることがあれば遠慮なくおたずねくださいね♪

